

## 令和7年度第3回

### 小林市地域公共交通活性化協議会・小林市地域公共交通会議

日時：令和7年11月18（火）15：00～16：00

場所：小林市役所2階 第1会議室

#### ◆会議次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

令和7年度地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー計画）に関する事業評価について

4. その他

5. 事業者からの近況報告

①鉄道の利用状況等について（JR九州宮崎支社）

②市内の交通情勢について（小林警察署）

6. 閉会

## 令和7年度小林市地域公共交通活性化協議会・地域公共交通会議 委員名簿

No.	区 分	所 属 団 体 名	氏 名	出 欠	
1	(1)総合政策部長	小林市総合政策部長	牧田 純子	○	
2	(2)一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	宮崎交通株式会社バス事業担当執行役員兼乗合部長	川崎 智	欠席	
3	(3)一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者の代表	一般社団法人宮崎県タクシー協会小林支部 支部長	後口 昌賢	○	
4	(4)社団法人宮崎県バス協会の代表	一般社団法人宮崎県バス協会 専務理事	上平 賢一	欠席	
5	(5)旅客鉄道事業者の代表	九州旅客鉄道株式会社宮崎支社 企画運輸課長	片田 大士	【代理】企画運輸課員 大坪 功治	
6	(6)住民又は利用者の代表	民生・児童委員代表	小林市民生委員児童委員協議会 理事	龍神 豊美	欠席
7		商店街代表	小林市商店連合会 会長	兒玉 龍之介	【代理】副会長 小笠原 賢一
8		障害者代表	小林市障害者福祉連絡協議会 (小林市あかつき福祉協会) 事務局長	赤木 一夫	欠席
9		高齢者代表	小林市友愛クラブ連合会 総務部長	福永 友一	○
10		須木地区住民代表	すきむらづくり協議会 会長	富永 圭一	欠席
11		野尻町地区住民代表	輝けフロンティアのじり 運営委員	四位 純徳	○
12		西諸地区公共交通を守る会代表	西諸地区公共交通を守る会 副会長	古園 拓真	○
13	駅周辺住民代表	吉都線に観光列車を呼ぼう！小林実行委員会 会長	吉村 秀昭	○	
14	(7)九州運輸局宮崎運輸支局長が指名する者	九州運輸局宮崎運輸支局 支局長	天野 重信 ※活性化協議会ワーキンググループ	【代理】首席運輸企画専門官 寺次 英修	
【代理】首席運輸企画専門官 尾川 陽介					
【代理】首席運輸企画専門官付 寺田 皓士					
15	(8)一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体の代表	宮交タクシー労働組合小林支部 支部長	田村 直和	○	
16	(9)道路管理者、宮崎県警察、学識経験者、その他市長が必要と認める者	宮崎県総合政策部総合交通課長	松田 隆	【代理】総合交通課主事 石崎 大貴	
17		小林警察署交通課長	濱田 誠	○	
18		小林市建設課長	柿木 博敬	○	
19	事務局	小林市企画政策課長	辛島 潤也	○	
20		小林市企画政策課主幹	今村 宏之	○	
21		小林市企画政策課主査	齊藤 理一郎	○	

(1) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー計画）に関する  
事業評価について

【概要】

国の補助事業を活用した事業について、次年度又は将来の事業をより効果的・効率的に実施するために、事業の実施状況等を振り返り評価するものです。

地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー計画）はコミュニティバスの運行に対する補助です。

バス年度令和7年度（R6.10～R7.9）コミュニティバス運行に係る事業評価は、目標値 24,721 人に対し 18,916 人の利用実績（76.5%）となっています。

■利用者数一覧

路線名	R7 目標	R7 実績	目標達成度	R6 実績 (参考)
上九瀬線	8,627	6,667	77.3%	7,273
上九瀬線 【上原地区経由】	933	505	54.1%	737
鷺野循環線	372	260	69.9%	326
岡原循環線	746	457	61.3%	574
種畜牧場循環線	1,581	448	28.3%	1,104
南ヶ丘線	912	647	70.9%	805
環野一千歳線	1,864	1,106	59.3%	1,064
運動公園循環線	870	712	81.8%	783
深草循環線	392	535	136.5%	598
大出水循環線	1,231	1,367	111.0%	1,189
三松循環線	7,193	6,212	86.4%	7,244
合計	24,721	18,916	76.5%	21,697

コロナ禍後、利用者数は回復傾向にありましたが、日常利用者（通学・通院利用者）の減少により目標を達成することができませんでした。

引き続き、利用状況及び利用者のニーズ等を細かに分析し、利用者増を図ることによってフィーダー系統の維持・確保に努めていきます。

以上の事業評価をまとめたものが次ページ以降のものとなります。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年11月 日

協議会名: 小林市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小林市	小林ー上九瀬線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標8627人に対して6667人であった。	須木区域唯一の路線であり、通学で利用している利用者がいるため、維持・存続が不可欠である。しかし、少子化により通学利用者が減少したことにより目標を達成することができなかった。新規利用者の開拓など利用促進を図る。
	小林ー上九瀬線【上原地区経由】	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標933人に対して505人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。
	小林ー鷓野循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標372人に対して260人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。
	小林ー岡原循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標746人に対して457人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。
	小林ー種畜牧場線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標1581人に対して448人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。
	小林ー南ヶ丘線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標912人に対して647人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。

## 協議会名: 小林市地域公共交通活性化協議会

## 評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

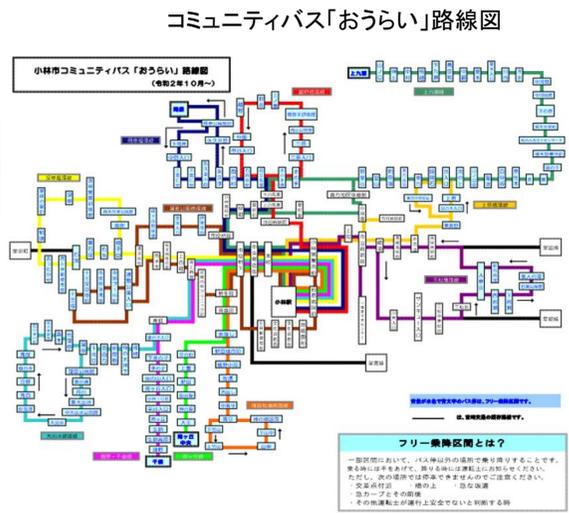
①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小林市	小林－環野－千歳線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標1864人に対して1106人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。
	小林－運動公園循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標870人に対して712人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。
	小林－運動公園循環線 ※逆循環				
	小林－深草循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標392人に対して535人であった。	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。
	小林－深草循環線 ※逆循環				
	小林－大出水循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標1231人に対して1367人であった。	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。
	小林－三松循環線 【岩瀬地区経由無】	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標7193人に対して6212人であった。	複数の病院や商業施設を経由する路線であり、主要施設を循環するバスとして維持・存続が不可欠である。引き続き、イベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。
	小林－三松循環線 【岩瀬地区経由有】				
小林－三松循環線 【八幡原市民センター経由】					

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年11月 日

協議会名:	小林市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	小林市地域内確保維持改善計画
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当市の公共交通は、JR小林駅に隣接する小林市地域・観光交流センターを公共交通拠点として、そこから発着する路線バス、コミュニティバス及びJR吉都線により構成されており、宮崎市、都城市、えびの市、高原町へ広がっている。また、宮崎市及び都城市の医療機関・大規模商業施設へのアクセス、通学等、住民の日常生活機能を担う幹線交通網を利用する手段として、高齢者や学生を中心に、生活に必要不可欠なものとして利用されている。</p> <p>路線バスが運行していない交通空白地域では、フィーダー系統路線としてコミュニティバスが幹線交通網に通じる支線の役割を果たしている。しかし、自家用車の普及、65歳以上の免許保有者の増加、少子化による通学利用者の減少により、当市の公共交通機関利用者は減少し続けている。</p> <p>これらの問題を解決するため、地域公共交通確保維持事業を活用し、コミュニティバス路線を確保・維持することで、交通手段を持たない住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

## 概要



【名称】のりやいバス「おうらい」

運行主体: 小林市  
 運転: 宮崎交通株

本市は、鉄道および路線バス、コミュニティバスの公共交通機関網が広がっている。

鉄道は、日豊本線に接続する都城駅と肥薩線に接続する吉松駅を結ぶ61.6kmのJR吉都線が市内を通っており、主に通学的手段として利用される。

路線バスは、市街地と隣接するえびの市、高原町だけでなく、宮崎県の中核である都城市や宮崎市とを結ぶ重要な幹線系統バス路線としての役割を果たしている。

コミュニティバスは全11路線あり、上記の鉄道及び路線バスに接続し、中心市街地と中山間地域等とを結ぶフィーダー路線としての役割を担い、交通弱者の生活にとって必要不可欠な移動手段として機能している。

## 基礎データ

- 合併状況: 平成18年3月に1市1村(小林市、須木村)が合併  
 平成22年3月に1市1町(小林市、野尻町)が合併
- 人口: 40,223人(令和7年10月1日現在現住人口)
- 面積: 562.95km<sup>2</sup>
- 過疎地域等指定: あり(旧須木村、旧野尻町の地区)
- 高齢化率: 38.98%
- 系統数: 11系統(確保維持事業のみ)
- 自治体負担額: 令和4年度: 18,404千円、令和5年度: 16,675千円  
 令和6年度: 17,035千円
- 協議会開催数: 令和4年度: 3回、令和5年度: 3回、令和6年度: 3回

## 計画、目標(Plan)

本市は、市民の多様な移動ニーズに対応すると共に、持続可能な地域公共交通体系の構築を目指している。令和4年度から令和8年度までを計画期間とした「小林市地域公共交通計画(令和4年3月策定)」に基づき、地域公共交通の確保を図っている。なお、この計画は、将来のまちづくりの指針である「第2次小林市総合計画」と密接な連携を図るものである。

## 生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

生活交通確保維持改善計画に沿ってコミュニティバスの運行を実施し、路線の維持を図った。利用促進活動として、広報紙に公共交通の記事を掲載した。また、毎年開催される秋まつりのパレードなどにおいて、来場者にコミュニティバス時刻表の配布や、乗り方教室の開催により市民への周知に努めた。

## 実施状況、目標の達成(Check)

R6.10～R7.9の目標利用者数を100%とした基準で達成度を示す。※括弧内は、実績利用者

上九瀬線: 77.3% (6,667人)	上九瀬線【上原地区経由】: 54.1% (505人)	鷗野循環線: 69.9% (260人)
岡原循環線: 61.3% (457人)	種畜牧場循環線: 28.3% (448人)	南ヶ丘線: 70.9% (647人)
環野・千歳線: 59.3% (1,106人)	運動公園循環線: 81.8% (712人)	深草循環線: 136.5% (535人)
大出水循環線: 111.0% (1,367人)	三松循環線: 86.4% (6,212人)	合計: 76.5% (18,916人)

新型コロナ禍後、利用者数は回復傾向にあったが、日常利用者(通学・通院利用者)の減少により目標を達成することができなかった。

※参考: 令和元年度25,783人、令和2年度24,014人、令和3年度22,090人、令和4年度22,345人、令和5年度23,124人、令和6年度21,697人

## 今後の課題、対応(Action)

- ・利用率の低い路線を中心に見直しを検討し、フィーダー系統路線の維持・確保に努める。
- ・地域住民のニーズを把握し、要望を路線に反映する。
- ・利用者が固定化されている傾向があるため、その利用者が種々な理由で利用できなくなった場合、利用者数の減少が進んだ。そのため、広報紙やイベントを通じてPRを図るほか、他の交通サービスとの連携強化など、新たな利用者の増加につながる取組について検討を続ける。